日本をキリストへ 協力

53

「日本をキリストへ」伝道団体連絡協議会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3291-5035（総動員伝道内）
www.gospeljapan.com/dd/

とげ（棘）

伝道団体連絡協議会　副会長　浅見鶴蔵

「そのために私は、高ぶることのないように、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。」（コリント一二章七節）

パウロは神からの特別な啓示を与えられた人です。人間はどうしても誇り、高ぶりやすい者です。神はパウロが高ぶらないように肉体に一つのとげを与え、高ぶりそうになると、「おまえには、どうにもならないとげがあるのではないか」と問いかけ、へりくだることを教えられたのでしょう。弱点を「高ぶることのないように与えられた」と受け止めたパウロの姿勢に偉大さを感じます。そのようなパウロが用いられたのは、どんなに祝福されても、高慢にならないためでした。パウロが得た「肉体のとげ」は彼を苦しめる厄介なサタンの使いです。主は、サタンの活動を用い、彼が誇ることのないように弱さを与えられました。パウロは、自分の弱さに生き、それを誇りとするようになりました。そして、キリストの力が自分に宿ることを願い、宣教の困難の中でも、「私が弱いときこそ、キリストによって強くされる」と信じて主に従っていったのです。「とげ」には大変重要な意味があり、誇ることのないようにと、私自身強く示されました。

「日本をキリストへ」。伝道団体連絡協議会の創立からかかわって、早いもので二十年の歳月が経ちました。機関紙『協力』には素晴らしい意味があります。教会のために各伝道団体が宣教の困難を覚えながらも使命感をさらに深め、もう一度お互いに理解し合うための足がかりになると思います。そして、十字架を柱としたキリストの「力」を、「信」「望」「愛」の三つの力をさらに期待して、伝道の業が進められ、ますます祝福されるように祈っていきたいと願っています。

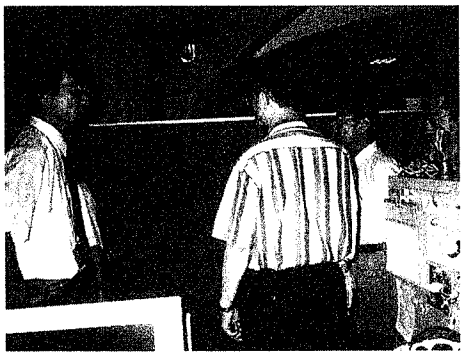
第二十回の総会において、思いもよらず副会長の大役に推されたことは、青天の霹靂でした。及ばずながら、伝道団体の皆さんと共に姫井会長のもと、お役に立てればと思いを深くしています。

伝団協訪問ツアー

ワールド・ビジョン・ジャパン訪問報告

二〇〇四年八月十日(火)、総動員伝道二名、聖書協会三名、JTJ宣教神学校一名、ブリッジス・フォー・ピース・ジャパン二名、こころの友伝道全国連合会一名、太平洋放送協会一名、各伝道団体から総勢十名で、ワールド・ビジョン・ジャパンを訪問し、事務局長であられる片山信彦兄より事業内容の説明を受けました。

アメリカのキリスト教宣教師ボブ・ピアス博士が、韓国を訪れた際に、朝鮮戦争によって傷ついた人々や多くの戦争孤児に食料、水、住居が必要なことを知り、一九五〇年アメリカのオレゴン州ポートランドでワールド・ビジョンを設立し、韓国の戦争孤児や寡婦、ハンセン病や結核患者たちに救いの手を差し伸べることから始められました。この活動は現在百か国で、地域開発や緊急援助などの支援事業を展開しているそうです。「すべての人々に何もかもはできなくても、誰かに何かはできる」という思いで仕事をしているそうです。



ワールド・ビジョン・ジャパンは一九八七年十月に設立され、独自の理事会を持ち支援国事務所として活動。一九九九年九月三十日に特定非営利活動法人の認証を得、法人格を持つ民間援助機関として、二〇〇二年五月には国税庁よりNPO法人に認定されました。ワールド・ビジョン・ジャパンへの寄付金は寄付金控除の対象となり税制上の優遇措置が受けられるそうです。

キリスト教精神に基づき、貧しい人々のために働くために献身し、すべての人間を価値あるものと見なし、またゆだねられた資金や能力を正しく管理し、団体の活動とそれにかかわる人々に対して責任を負って、組織・文化・宗教を超え、寄付者・受益者・スタッフ・協力機関のすべてをパートナーとして公正かつ協力的に活動し、生命の危機や複雑な社会問題のために、すべての機会において、知恵と能力を生かし、迅速に支援の手を差し伸べ、人々の生活に変革をもたらし、貧しく、抑圧されている人々と共に働き、正義を追求する使命を持っておられます。

海外支援活動(開発援助事業)では、二十二か国五十五事業を実施。開発援助費の八七%が、チャイルド・スポンサーシップ・プログラムの財源で賄われ、子どもの健全な育成のために、教育、保健衛生、所得創出、水資源開発などに包括的に取り組んでいます。昨年度からワールド・ビジョンは、全スタッフが学び、あらゆることに対応できる体制にしていくことを目指しています。緊急復興援助事業では、十か国二十事業を実施し、南部アフリカの緊急食糧援助、アフガニスタンやイラクでの緊急援助、スリランカでの国内避難民援助を実施されています。

国内では、スポンサー数は前年に比べ七百四十人増加し、日本からの総支援者八千五百五人(二〇〇三年度末)の方々により二万二千人の子どもたちを支援されたそうです。多くの子どもたちが希望を持つことができ、地域の人々とともに自立へ向けた活動に励んでおり、年間支援金総額も十億に達しています。認定NPO法人として寄付金控除があるため、企業や団体からの支援が増加し、学校建設、井戸建設、農村開発、モンゴルのストリート・チルドレンへの支援などを行っているそうです。

ファミン二〇〇三で「タンザニアの難民キャンプにきれいな古着を送ろう」とのキャッチフレーズのもと、ファミンキャンペーンを行いました。そこでは、七千七百九十一の個人、グループ、企業が参加し、予想を超えて約四十万着の衣料品が全国から届き、百六十五人のボランティアの協力により、タンザニアに贈られています。

一般紙や専門誌に広告を出しているので、一般の方々からの支援が九〇%以上になっているそうです。毎年、支援者の方々が現地訪問ツアーを実施し、その中で、ノンクリスチャンの方々は神様を知る機会を得、支援が地域全体に大きな影響をあたえているのを目の当たりにするそうです。

また、日本の子どもたちが、ワールド・ビジョンの活動についてわかりやすく学べるように、ホームページに「キッズクラブ」を開設。ほかにも、事務所を訪れる学生に講演や開発教育ゲームなども行い、国際協力についての情報を提供することで、学生や子どもたちの積極的なボランティア参加を願っているそうです。

伝道団体連絡協議会における大きな組織の一つであるワールド・ビジョン・ジャパンが、ますますこの世界で必要を待ち焦がれる子ども(人々)と共に歩まれ、働きがなされますようお祈りいたします。

(日本聖書協会　小林幸順・記)

伝団協　一泊研修会の報告

期日　二〇〇四年十月十八日（月）
午後三時～十九日（火）正午
場所　ウェルシティ湯河原
テーマ「伝道団体の理念に学ぶ」

毎年行われている伝道団体連絡協議会主催の一泊研修会が、ウェルシティ湯河原で持たれた。今回は、特別講師を招かずに、各団体の働きを互いにより深く知り、その理念から学ぼうとするものであった。参加した団体は、ライフミニストリーズ、国際ナビゲーター、日本キリスト伝道会、小さないのちを守る会、総動員伝道、日本伝道者協力会で、それぞれその代表者たちが、各団体について紹介する時間を持った。少人数の参加者であったため、かえって親密な交わりをすることができた。ここに、その団体の働きと理念を紹介する。

まず、ライフミニストリーズでは、松平善宏兄が参加され、一九六七年から働きが始まった経緯と、その歴史を紹介された。その理念は、「教会とのパートナーシップを築き、宣教のビジョンを持った牧師と信徒とが協力し、日本の教会の開拓と成長に協力する」というものであった。かつては、スクラム伝道、フレンドシップゴルフ、コンチネンタルズ、ホームステイ・プログラム、各種コンサートなどを行っていたが、現在は、日本教会成長研修所とアジアン・アクセス（アジアの七つの国に働きを拡大）という働きを中心に進めている。

日本キリスト伝道会からは、鈴木優子姉が参加された。四十一年前に原登師が米国宣教旅行に出かけたことが契機となり、超教派で伝道するビジョンが与えられて、伝道会がスタートした。現在は、三つのことを中心に行っており、それらは、全国教化伝道（教職者、信徒の派遣）・日本伝道の幻を語る会（日本伝道の方向性を見いだす）・国際交流（ブラジル、台湾、韓国、米国等）である。毎夏キャラバン伝道があり、地方への伝道に協力している。

国際ナビゲーターからは、渋沢浩二が参加した。一九五一年に沖縄に宣教師が遣わされ、日本宣教が始められた。一九六四年から学生宣教が始まり、九〇年代にはコミュニティ宣教がスタートした。この間、伝道と弟子作り宣教が中心に進められ、二〇〇二年には、以下のような理念が掲げられた。

「私たちは、失われた人々の間に住み、弟子を起こし、霊的に生み出された何世代かの働き人によって、イエスの福音と神の国を国々の中に広めます。」また、九つの大切なことがらも決められ、それらは、キリストを深く知り、キリストのように変えられること。福音は私たちを変えつづける力であること。個人の価値と尊厳。コミュニティの中での愛と恵みの実践。地域教会や他団体との協力とネットワークの構築などである。

小さないのちを守る会では、辻岡健象兄が参加された。生命の尊重と性の秩序を回復するため、ミッションの働きとしてスタートした。中絶による生命軽視への問題提起、養子縁組や中絶体験者の悩みのフォローなど日本全国で働きを進めている。最近は、教会で養子縁組の受け入れ式を行うことで、教会と地域との関係を築いている。

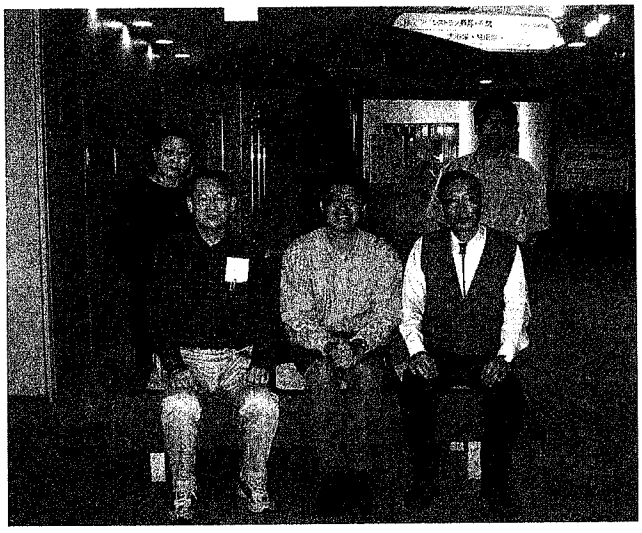
総動員伝道からは、姫井雅夫師が参加された。これは、一九六七年に羽鳥明師らによって始められた。当時、南米で始まっていた「深みの伝道」からヒントを得たもので、「すべての人に福音を、すべてのクリスチャンを良い証し人に、すべての教会に祝福を」をスローガンとした。一九七〇年から、地域の教会と協力して、四国から九州、西日本、そして北海道へと日本をくまなく伝道しつづけた。しかし最近では、地域教会の牧師会の協力が弱くなってきているのが寂しい気がする。

日本伝道者協力会は、本田弘慈師らが中心となり、巡回伝道者を訓練する目的で始められた。途中でいくつかの変遷があったが、現在は伝道方法も多様化し、音楽伝道者のほか、腹話術伝道者、手品による伝道者なども加えられている。活動としては、リトリートや研修会、総会などがある。

このほか、ワールドビジョンやブリッジス・フォー・ピース・ジャパンなどの団体の紹介もあった。

最後に、三十六伝道団体の祝福のために全員でお祈りの時を持ち、閉会となった。

（国際ナビゲーター　渋沢浩二：記）



「伝団協」加盟団体［ニュース・フラッシュ］

●お茶の水クリスチャンセンター
毎週もたれているフライデーナイトのためにお祈りください。
十一月二十日には、お茶の水アンプラグドというアウトリーチのためのライブを行いました。今後も継続していく予定です。

●国際ナビゲーター
首都圏では、十二月十八日(土)午後四時より、クリスマス伝道集会(賛美：ベック由美子姉講師：関根一夫師)をOCC四一五号室にて行います。軽食付きで千五百円。お問い合せは、〇三・三二九五・〇一四六まで。

●総動員伝道
狭山市民クリスマスの応援をします。二〇〇五年一月、断食祈祷聖会が開催されます。世界も日本も危機の中にいます。祈りましょう。信徒訓練用教材を活用してください。

●日本伝道者協力会
牧師には制約があります。時間を自由に用いて伝道できる巡回伝道者が必要です。若手の伝道者が育つように祈ってください。伝道者を大いに用いましょう。

●太平洋放送協会
十一月六日(土)、星野富弘氏を招いて講演会を開催した。信仰と詩画、そして結婚についてもユーモアたっぷりに語ってくださり、一同大変感動しました。参加者三百四十六名。

●日本キリスト伝道会
東京地域伝道(九月二十七日～十月三日、講師：児玉博之師)は、各集会とも盛会のうちに終えることができました。来年の集中伝道県は、徳島県と高知県となりました。

●教会インフォメーションサービス／CIS
一．今年も日本の教会の集計が出され、まとめられました。CISニュース六十二号に発表。
二．新しい体制のスタートを切るために、今理事会準備会を開いて話し合っています。
三．「宣教の突破口を開く」をテーマにエリヤ会シンポジウムが九月に開かれました。シンポジウムの録音CDができています。千六百円。希望者はCIS(〇四二四・九四・二二一九)まで。

●近畿福音放送伝道協力会
六月にJR環状線玉造駅から徒歩数分の所に事務所を移転しました。会議室もあり、録音室も併設しました。種々のセミナー開催など地域の宣教に益となる活動を展開していきたいです。

●情報交換会のお知らせ
日時　二〇〇五年一月十一日（火）　午後二時～四時
場所　OCC九〇一号室
二〇〇五年という新しい年にあたって、伝道団体連絡協議会に加盟している三十六団体が集い、互いの働きや課題や計画を紹介し、互いのために祈りあう時を共有します。全能の主なる神は、ご計画を進めるためにそれぞれのユニークな働きに伝道団体を召してくださっています。その伝道団体が得ている情報を共有し、日本人の福音化と神の国の支配の実現のために一致協力していきましょう。各団体から代表者数名をお送りください。主の栄光が諸団体の上にありますように！

（伝道団体連絡協議会とは）
キリスト教界には大きく分けて二つの分野があります。キリストの十字架の血によって罪赦された人々の集まりとしての「教会」と、クリスチャンになった者たちがそれぞれの使命をもって専門的な分野で伝道活動、福祉活動などをしている「伝道団体」です。この二つはともに協力し合って神の福音を伝え、神の国の拡大に務めています。教会と伝道団体はともに助け合う必要があります。伝道団体がバラバラに活動していたのでは教会にとって協力しにくいし、伝道団体相互にとっても力を欠くことになります。そこで連絡のために一つになろうと「伝道団体連絡協議会」が生まれました。現在三十六の団体が傘下にあります。

発行日　二〇〇四年十二月三日
発行者　姫井雅夫
編集者　豊田義直